慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	財部静治著 国勢調査問題講話
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.8 (1920. 8) ,p.1181(153)- 1183(155)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200801-0153

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

め近して、恐らくは日の神なるべし。(二六頁 め類である。蓋し言語學に通曉せらるゝ博士に 天上にありと考へたる最高位の神靈を指せると 依つてのみ始めて企で得る所であらう。 は黒の義とせらるれぞも、 その原義はアイスが

する時は所謂穿鑿好きの遊戯に化し去る虞があ 本書一讀後何となく物足りなさを感ぜしめるの 程度迄原人の思想風俗を闡明し得るかは疑問で たならば、更に一層得る所が多かつたであらう。 る。是は難きを望むことかも知れないが、若し は恐らくかゝる理由からではないであらうか。 博士にして更に上述の諸學の知識が豊富であつ 得るものである。 類學經濟學等の援助を待つて始めて有力になり ある。云ふまでもなく斯の如き研究は生物學人 然し年ら斯の如き研究方法が果して如何なる ヌ語の研究が「二三篇學の士を除きて 單なる語源研究のみを以つて

> 對して妄評の筆を採つた次第である。 を渴望して止まない。博士の此の著述が動機と にせらるこことを熱望するの餘り、敢て本書に 種族の言語たる琉球語朝鮮語生蕃語等の研究公 なので獨りアイヌ語に止まらず、 知らない。今後期の如き研究の益々盛んに發表 と放言して憚らざる有様」なるに博士が特に此 してなほ且つこの米開語の研究何の用かあらん せられ次第に原始人の生活の闡明せられんこと れたることに對し、 の困難なる研究を遂げ真摯なる所産を公にせら は、殆んどこれを顧るだにせず、 吾人後進者は威謝の言葉を 同じく原始的 知名の學者に

野 太 郎

財部開治著 國勢調查問題講話

假头 二 剣 泒 圓三 文 堂事 Ξ Ħi. 十九 錢頁

精や具體化されんとしたけれども、 せられ、其の後、四十三年に再び質施の計畫が、 た。故にこの法律は、三十八年二月に一度改正 るの餘裕なく、遂ひに延期の已 むなきに 至つ よって、内外の國事多端の爲めに、之を施行す め三十八年には前年に勃發したる。日露戰爭に 機額して行ふ計畫であった。然しなから、 ことであった。この法律の發布當時に於ては、 各々半個年毎に一囘、帝國の版圖内に、 明治二十八年に第一囘の國勢調査を行ひ、 法律の發布せられたのは、既に明治三十五年の は今回が始めていある。 吾が國に於て、國勢調査の實施せらる >の 第十四卷 コースコ けれども之れ聞にする 新刊紹介 之れも中道 之れを 豫定 爾後

> ある。 之れが取扱規定、 翌八年五月には、施行細則に闘する閣合、及び 立を見、 に初めて勅令によりて臨時國勢調査局官制の成 施の運に立到ったのである。 るの機會を與へられ、今年十月一日に、愈々實 して大正七年に至りて、漸やく再び光明に接す さなくてはならぬこと、なつたのであつた。而 せられたる法律は、最近大正七年に至るまで、 まつた。かくの如くして、最初三十五年に發布 にして挫折し、 - 有幾年の長年月を、徒らに黑暗の狸に、過ご 同年九月に施行令が發布せられ、 質施の機會は、再び失はれて 必得等訓令の公布を見たので 即ち大正七年五月 次で

内的の困難が伴ふを免れぬ。即ちて 之が實施に就いて、 たる、外的事情の一端であるが、國勢調査には かくの如きは、 吾が國に於ける實施の遷延し 國勢調査その物の有するい 第一には、

五五三

を重複せしむること、等は國勢調査の實施、 び正確なる結果を得難き所以である。 に虚偽を報告する虞あること。第四には、 質を隠蔽し、或ひは機微に動く人情より、故意 務を加重せらるとにあらざるやの疑念より、 せらるゝ者が租税、犯罪或以は兵役、其他の義 めに、脱漏し易きことである。第三には、 には、交通の頻繁なることと、人口稠密なるた 額なる費用を必要とすることこれである。第二 多數の調査員を必要とすること、及び非常に巨 又は調査せらるゝ者が不知不識の間に調査 調査 調査 及

は、單に、國家の努力のみならず、多數國民の に發揮せしめ、顕著なる成績を齎さんとするに 十分なる理解と一致とに、俟たなく *故に、國勢調査を實施して、その效果を十分 ものであらう。 國勢調査事業は、國家によつて處理せらる 然しながら、 調査の重要材料 てはなら

> 次第である。 學の財部博士が、「國勢調査問題講話」を出版せ 切なることと思ふ。この時に方り、京都帝國大 られたるは吾人の深く感謝の意を表して已まぬ 民をして、國勢調査の何たるがを、十分理解せ る人を得ることが、必要であると共に、一般國 でもない。この點から云つて、當局者に適當な のが、その任に方つても、徒勢に終るは説く迄 誤った材料を提供する時は、その處理に、如何 に優秀なる技能と、卓越したる才幹を有するも たる記録を提供するは、國民各自の任務で しむることは、文同様に、或ひはより以上に緊

る迄でもない。本書は博士が「昨年八月中京都 幾多の著書論文を公刊して、斯界に貢献せらる が統計學界に於ける東西の二重鎮である。 くこと、頗る大なることは、吾人の今更絮説す 本書の著者財部博士は、高野博士で共に、吾 旣に

T 演を重ね」られたる要録に「多少の補筆を加へ 帝國大學夏季講演の一部でして」講演せられ「次 いで内閣統計講習會に臨み、之と大同小異の講 公刊せられたるものである(序文参照)。

的に了解せり 史質を縦横に用ひて、何人にも與味津々たる狸 専問的記述を、平易ならしめんが為めに、 述して居られる。而して、 六に分ち、之れを更らに、各項目に分ちて、 の大意(二九―六〇頁)、國勢調査本論(六〇―ー 緒言(一一五頁)、總說(五一二九頁)、人口統計 六三頁)、徐論(一六三—三一三頁)、及び附錄の 而して、本書の構圖は、全體を先づ大別して、 能く博士の力説せんとせらるゝ點を、 卑近なる諸國の傳說、又は各國の有名なる 博士は博士獨特の明快なる筆致を以て其の めざれば止まざるものが 單に國勢關查問題に關する一般 かくの如き配列によ ある。 徹底 隨處

> ある。 めに慶賀し、併せて廣く江湖に紹介する次第で 博士がその該博なる蘊蓄を披瀝して、 勢調査の實施期、漸やく迫らんとする時に方り、 き絶好の著述を試みられたることを、斯界のた 著書である。 斯學の専問家をも益すること多大なる、 人士に推薦すべき平明なる講話たるに止らず、 [张] : 今や吾が國に於ける、 園 第一回の國 かくの如 絶好の

野村無太郎著 經濟的文化ご哲學

東京三田國文堂 片片多介 敬版三百七十七頁定價祇園參拾錢 京三 國文 書

最近一兩年間に「三田學會雜誌」、「改造」及び「三 輯せるものなり。 田評論し等に掲げたる諸論文に訂正を加へて集 て阿部秀助教授指導の下に起草せるもの、並に 本書は 野村氏が慶應義塾理財科卒業論文とし 序文「真を求めて」の外「科學

コー公司